

編集後記

当研究所は2006年7月に創立12周年を迎えました。その折に、多岐にわたっている研究所の事業について相互の関連性を整理するとともに今後の研究活動の方向性を考えることをめざし、今回の特集「12年のあゆみ」を全研究員で執筆しました。この特集ができたきっかけには来年度から矢作川研究所の研究顧問に就任される中西正己京都大学名誉教授からの「設立当初の意気込みに立ち戻り、設立目的の概念的な理解から具体性のある経験的な理解へ脱却するためのきっかけにしてほしい」との提案がありました。今後は、より一般向けに平穏な内容にしたリーフレットも刊行する予定です。昨年は、矢作川研究所の設立以来この年報にもご執筆いただいていた田中蕃氏と今井勝美氏という矢作川研究所の大きな財産を失いました。お二人の遺志を受け継いで、この2つの特集をスタッフの間でも大いに活用しつつ、これからの布石を打つ方向を見極めていきたいと思えます。

2008年3月

矢作川研究編集委員会